2024年度 学校評価 <学校関係者評価>

サミットアカデミーエレメンタリースクール長野

サミットアカデミーセカンダリースクール長野

■学びの方向性について

- ・「多様性を認め合える、子どもが学校を創る」という点について、うちの幼稚園もそうやっている。同じ方針の小学校があることは嬉しい。
- ・探究的な学びについて、自分で考えるということを学校が目指しているのは結構なことだと思う。
- ・子どもにとって学び甲斐がある学校、学校のことを子どもたちが語る学校になってほしい。明日も学校に行きたいと思える楽しさの質を高めていくということが重要。

■英語イメージ教育について

- ・英語のシャワーを浴びるということについて、聞く力は本当に伸びると思う。分からないのは、英語を使う際、思考するのは日本語でなのか、英語でなのか。私は理科の専門だが、どっちの頭で考えるようになるのか、また進んでいったら教えてもらいたい。
- ・考える、深めるときに、反射的に理解する思考と、深い思考と対象がかなり違うと思う。内側でどんな思考が働いているのか。イメージ教育の根幹であると思う。英語を使えるということと、人格も含め人間形成においての学ぶ力、本当の意味の武器になるものを深めるといえるときに、そういうものを視野に入れる。こういった校種であるがゆえに大事だと思う。
- ・強制的に日本語の本を借りられる日を作ってほしい。インターから上がってきたお子さんなどは、日本語に触れる機会が少ないまま入学してきているので、そこを増やす工夫が必要と思う。

■子どもたちの主体性について

- ・小学校で既存のルールを学び、厳しい指導を受けてきた子どもたちが、フレッシュな考えで学校を創れるのかどうか。子どもたちが小学校教育で受けた影響も考慮しながら、新しい学校を創っていけるようにリードしてほしい。

■地域社会や人との関わりについて

- ・サミットは社会としては小さく狭い。十代までに、異なる世代の人と、たくさんの人々と関わってほしい。地域の方や企業の方にお話をさせていただきだけでなく、対話をするなど、ぜひ続けてほしい。
- ・エレメンタリーの児童がセカンダリーの生徒と交流する機会は多少あるが、小1生にとってこの先ずっと、自分が一番上の学年。年の近いお兄さんやお姉さんに教えてもらったりという機会は必要ではないか。方法はわからないが、今後そういう機会が増えるように考えてほしい。

■教職員について

- ・先生について、夏休み前は自分の中にあるものを伝達するようだったが、今日は子ども声を聴くということが意識化されているのを顕著に感じた。表情もやわらかくなっていた。先生方同士で社会情勢に対応しながらどう学び合っていくかが非常に重要である。
- ・生徒が主体的に学ぶための工夫は、先生方が苦勞しているところだと思う。主体的に取り組むためには、ある程度の知識や経験が必要で、中1で問題を見つけて解決していくのは難しいと思う。ある程度、教師側のお膳立てが必要ではないかと思うが、先生方がとてもうまくリードサポートしていると思う。
- ・これから若い先生たちがどう成長するのが楽しみ。

■校舎施設について

- ・学校に入ったとき、玄関から温かかった。公立の小学校は廊下は寒く、うらやましい。また、光も入り明るいと感じた。
- ・オープンスタイルの場合、座ってられない子が出てきたときどうなるのが心配。

■リスクマネジメント

- ・生徒が所持しているスマートフォンのフィルタリングはされているのか。学校としてコンプライアンスやリスクマネジメントには積極的に取り組んでおいた方がよい。家庭に要請まではできないかもしれないが、ケアしていくことは大切。

■自己評価について

- ・自己評価は冷静に判断するべきだが、謙遜はしなくて良いと思う。また、例えば英検やGTECなど、分かりやすく具体的・客観的な物差しが必要なのではないかと思う。

■生徒募集について

- ・学校の人気が出て生徒数が増えてほしい。SNSを見て、明るくていい学校だねというのと、何歳で英検何級持っているとかわかりやすい基準は、よいアピール材料になる。